

授業科目名	人体機能学 (2300105)		
時間割名	人体機能学 (55203)		
時間割担当	高橋優三		
実施期	前期	単位数	1 必修
曜日・時限	金・5		

授業の目標・概要

人体機能学 に引き続き、器官（組織レベル）と分子（生体物質レベル）に基づいた広範囲な生理機能を総合的に理解することを目的とする。人体機能学 では、栄養と代謝、体温、泌尿器系、内分泌系、生殖器系、骨神経系、筋系、感覚器系の仕組みとその働きをコントロールする制御機構について学ぶ。

学習の到達目標

人体機能学は、正常な生物体の機能について研究する学問であり。同時に受講する人体構造学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであることから、看護を含めた医療に従事する者にとっては、深い理解が必要となる。そのため、人体構造学と並行しながら、からだの仕組み、機能を理解し、専門的な知識を習得する。

授業方法・形式

教科書に記載されていない図や表を記載したパワーポイントと資料プリントを使い、講義内容を明確に説明する。また適宜に練習問題を配布して理解を深める。

授業計画

- 第1回 生体防御
- 第2回 生体防御
- 第3回 生体防御
- 第4回 体温とその調節
- 第5回 内分泌
- 第6回 内分泌
- 第7回 内分泌
- 第8回 自律神経の機能
- 第9回 骨、軟骨の機能
- 第10回 筋の収縮機構
- 第11回 神経の情報伝達の仕組み
- 第12回 脳の高次機能
- 第13回 感覚・運動の伝導路
- 第14回 感覚器の機能
- 第15回 感覚器の機能

成績評価の基準

- ・期末筆記試験で90%評価
- ・小テストで10%評価

準備学習・復習及び授業時間外の課題

本講義中でのレポート等の宿題は設定しない。よって受講者は、講義内容を十分に理解できるように、予習、復習を各自でしっかり行うこと。各講義の最後に次回講義内容の範囲を説明するので予習の手引きに、復習には配布した問題プリントを活用して欲しい。

履修上のアドバイス及び留意点

人体構造学と関連付けることでより理解が深まると思います。また、本講座の語彙は日常で見聞きすることも多く、社会知識にも大いに役立ちます。まずは自分の体がどのようなになっているかに興味を持って、生体学の基礎知識を知る楽しさを味わってください。

教材・教科書

解剖生理学（医学書院）

参考書

目でみるからだのメカニズム（医学書院）